

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ケアステーション県央			
○保護者評価実施期間	令和6年4月1日		～	令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	3名
○従業者評価実施期間	令和6年4月1日		～	令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数)	12名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月1日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保育士、介護福祉士、看護師、理学療法士、作業療法士など各職種が専門性を活かして重症心身障害児に特化した療育活動を提供している。また、それぞれ内部や外部で研修を受けスキルアップをしている。	・重症心身障害児の特性に合わせた療育活動の提供、医療的ケアの実施。	・各種研修を重ね、全職員が専門性を活かして利用児の成長を促していく。
2	・保護者向けの勉強会や座談会を開催し、保護者同士のつながりの場や悩みを解消する場として提供している。	・事前に保護者の悩みを確認し、それに沿った勉強会や座談会にしている。	・今後も様々な悩みに対応した勉強会を実施していく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・近隣住民や近隣保育園との密な交流ができていない。	・インクルーシブな支援の重要性も理解しているが、重症心身障害児という健康管理が大変重要な児をお預かりしているため、感染症防止の観点から密な交流の機会は設けにくい。	・ケアステーション県央の行事で、少しずつ触れ合う機会を広げていきたい。
2	・きょうだい児に特化した支援は実施できていない。	・きょうだい児支援の重要性も理解しているが、児童発達支援事業利用者はきょうだいがまだいない人もいる。いる場合も、0～2歳児が合わせて3名のみなので、きょうだいに絞った活動は実現しにくい。	・親子行事や保護者勉強会の時に、きょうだいも含めた参加の形も検討していく。 ・長岡療育園のきょうだい会との共同も検討したい。
3			